

伝統芸能選抜公演

～プロローグ～

はなあらそい

〈狂言「花争」〉 京都府立嵯峨野高等学校 狂言部

嵯峨野高校は、1941年、篤志家の寄付による創立以来、「和敬清寂」という茶道の心を建学の精神とする。SSHやユネスコスクールの指定を受け、地球規模で考え、公に貢献する、高い知性と志を育てることを目指す「グローバル・リーダーシップ・イニシアティブ」の取組を進めている。グローバル社会に生きる上でのアイデンティティとして、古典文学や伝統工芸、茶道、能楽など京都の伝統文化に関する教育活動を重視している。

平成21年度、京都府の「古典の日」推進事業をきっかけに大蔵流狂言師十四世茂山千五郎先生の御指導による狂言の取組が始まった。平成28年度から狂言部として活動しており、これは高校の部活動としては全国唯一とされる。文化祭などでの上演や毎年12月に開催する能舞台での狂言会は、嵯峨野高校の新たな伝統となっている。全国高校生伝統文化フェスティバルや今宮神社御旅所能舞台での奉納狂言など、校外での発表も多い。



★主人が太郎冠者に「花見に行こう」と相談すると、太郎冠者は「桜とおっしゃるべきだ」と言いだし、「花」か「桜」か、たがいに古歌を引用しての争いになりました。形勢不利とみた太郎冠者は「桜」とよむ謡をうたい始めますが、その先に落とし穴が待っていました……。小野小町の「花の色は移りにけりないたづらにわが身世にふるながめせしまに」など有名な和歌をよみあう、ちょっと雅びな狂言です。

～歓迎プログラム～

ふしみ こう はながさ

〈伏水の香 ～花傘に祈りをこめて～〉 京都橘高等学校 太鼓部

本校は、水と緑に恵まれた歴史の町、京都伏見にある。文武両道を掲げ、学習にも部活動にも力を入れている。勉強面では東京大学、京都大学など数多くの国公立大学や難関私立大学に合格し、部活動では吹奏楽部、女子バレーボール部、男子サッカー部、陸上競技部、太鼓部が全国の舞台で活躍している。

太鼓部は1982年に太鼓サークルとして発足し、現在は京都橘中学校・高等学校太鼓部として活動している。「心は一つ」を合言葉に、基礎基本を重んじ、日々活動に励む。毎年全国高等学校総合文化祭の郷土芸能部門に京都府代表として出場し、最優秀賞を受賞した実績がある。また、地域のお祭りや福祉施設でも演奏しており、年間20回以上の外部出演を行っている。



【全国高総文祭での成績(過去3年間)】

郷土芸能部門 出場 (H29、H30、R1)

★「伏水の香」は太鼓部コーチ奥森陽平作曲によるオリジナル曲であり、伏見の町の歴史や風土を表す3章からなります。伏見は境内から香り豊かな湧き水が出たという由来から名付けられた御香宮神社があり、毎年秋に神幸祭にて多くの花傘が舞います。そして歴史のなかで多くの災害や争いごとが起こってきた町でもあります。香り出る湧き水が人を呼び、人々が文化や町を創る。平和や無病息災、五穀豊穡の祈りを全員演奏で表現します。

～交流プログラム～

そうおど

〈宇治田楽「惣躍り」〉 京都府立菟道高等学校

菟道高校は「さとく・さやかに・たくましく」を校訓として、創立以来、高い次元での「文武両道」を体現し、卒業生が「10年後に満足」できる教育活動を創造しています。質の高い集団「チーム菟道」を育成しながら、生徒たちが互いに支え合い、仲間たちと切磋琢磨する中で、個々の生徒の進路希望を図ります。この宇治田楽は、本校の探求学習「宇治学」の一つとして取り組んでいます。



★田楽とは、豊作を田の神様に祈願する儀式の中から生まれた、音楽と躍りからなる日本の伝統芸能です。平安時代には、宇治の白川にある宇治神社や宇治上神社をはじめ、各地の神社で田楽を踊る芸能民の集団があったと伝えられています。収穫をよこび、「月うさぎ」の曲に合わせて舞い踊る月の使者、子うさぎたちの楽しいげな躍りをどうぞご覧ください。

茶道フェスティバル

～歓迎公演～

どうむ

〈「童夢」作曲 吉崎克彦作〉 京都光華高等学校 箏曲部

毎年12月下旬に全国高等学校駅伝競走大会で賑わう京都市の西方、西京極運動公園にほど近いところにある中高併設の学校。中高あわせて十数名の部員を有する箏曲部は、創部50年以上の伝統があるクラブで、特に高等学校箏曲部は、今年度も含めて過去に40回以上全国高等学校総合文化祭の京都府代表に選ばれた実力を備える。

【全国高総文祭での成績(過去3年間)】

日本音楽部門 出場(R1)



★今回演奏致します吉崎克彦氏作曲の『童夢』は、「子どもに限らず和楽器を弾く人になじみ易く楽しんで弾ける曲であつたら」という願いが込められています。「わらべうた」をモチーフとして、6つの題材より、器楽合奏、編曲変奏部、口などを混じえて1つにまとめた曲です。

今回は、一箏、二箏、十七絃、三絃(三味線)の4つのパートで演奏致します。曲の中でいろいろと変化するテンポや随所に見られる早いフレーズでの演奏をお楽しみください。

日本音楽

〈「カプリッチオ」作曲 牧野由多可〉 創価高等学校 箏曲部

彼方に富士の雄姿を望む自然豊かな東京都小平市にある本校は今年で創立53周年を迎え、数多くの卒業生が、日本のみならず世界各地で活躍している。海外からの、多数の文化人・著名人による講演会などを通し、一人ひとりの生徒が、すべての学問の基礎となる教養と豊かな国際感覚を身につけている。箏曲部は1983年に創部され、「人間箏曲・全員箏曲」をモットーに練習を重ねている。1998年に初めてコンクールに挑戦してより、全国高総文祭には15度出場し、文部科学大臣賞5回、文化庁長官賞6回、優良賞1回を受賞。2002年、2010年には、文化庁より高校生国際文化交流事業の一環として、中山大學や北京師範大學付屬校等で交流演奏会を実施(北京・広州)。その他、海外からの来賓の歓迎演奏や、オープンキャンパスでの演奏を行っている。



【全国高総文祭での成績(過去3年間)】

日本音楽部門 文部科学大臣賞 (H29)、文化庁長官賞(R1)

★曲名の「カプリッチオ」はイタリア語で気まぐれを意味しており、形式や晦渋さを持たずに、明るく楽しく演奏してほしいとの作曲者の思いが込められています。曲中にはJazz風の部分が登場するなど、洋楽・邦楽といった枠を越えた自由で力強い曲となっています。技術を高めるだけでなく、心を磨き、人間性を高めることを目指して皆で努力してきました。これまで支えてくださった全ての方々への感謝を込めて、そして聴いてくださる皆様に勇気と希望を届けられるよう、精一杯演奏致します。

げっこう

〈「月虹の中で」作曲 高橋久美子〉 和歌山県立日高高等学校 箏曲部

和歌山県の中部に位置する御坊市にあり、生徒数約720名、普通科と総合科学科からなる県立中高一貫校で、平成26年に創立100周年を迎えた歴史と伝統のある学校。平成28年度より文部科学省スーパーグローバルハイスクールに指定を受ける。文武両道を目指しクラブ活動にも熱心に取り組んでおり、箏曲部は今年で創部52年目を迎える。「チームワークを大切に」をモットーに優れたアンサンブルの完成を目指して日々練習を重ねている。これまでに県大会では31回の優勝、全国高総文祭に20回の出場を果たし、平成19年度より6年連続上位入賞、平成20年度、そして平成23、24年度には二年連続「文化庁長官賞」を受賞。定期演奏会や海外訪問団の歓迎演奏会、近くには安珍・清姫で有名な道成寺や日高川などがあり、地域の演奏会にも出演。伝統文化の継承にも貢献している。



【全国高総文祭での成績(過去3年間)】

日本音楽部門 優良賞 (H29)、出場(H30)

★曲名にある「月虹」とは、夜に月の光によってできる虹のことです。それは昼間の「虹」と同等に輝く力を持っています。「月虹」を見たものには幸せが訪れるという言い伝えがあるそうです。幻想的でありながら迫力のある終盤を迎える曲です。私たち高校生の純粋な気持ちで、一人ひとりの音色を響かせ、「月虹」のように喜びの輝く光をお届けしたいと思います。

郷土芸能(伝承系)

おにけんばい

〈 鬼剣舞 〉 岩手県立北上翔南高等学校 鬼剣舞部

大正8年に創設され、平成16年に校名を「黒沢尻南高等学校」から「北上翔南高等学校」とし、男女共学の総合学科高校に改編。昨年、創立100周年を迎えた歴史と伝統のある学校。「進取創造」の校訓のもと、勉学に部活動に精一杯励んでおり、鬼剣舞部は地域に育まれた鬼剣舞の伝承活動を、国指定重要無形民俗文化財「岩崎鬼剣舞」から御指導いただき、72名で活動している。老人保健施設慰問や各種イベント、復興支援事業等へ参加。特に東京ビックサイトで開催された復興支援事業「スタンド・アップ・サミット」には2年連続で参加している。また、岩手ヤングフェスティバルでは、毎回鬼剣舞部部长が実行委員長を務め、部として運営に取り組んでいる。



【全国高総文祭での成績(過去3年間)】

郷土芸能部門 優秀賞・文化庁長官賞 (H29)、優良賞(R1)

★鬼剣舞は、北上地方の農民に伝承する民族芸能で、約1300年前から始まったとされています。念仏によって人を救い、ヘンパイという足踏みによって大地の悪霊を退散させ、天下泰平、五穀豊穡の祈りが込められています。私達の身の回りには、自然災害や新型コロナウイルス感染問題をはじめ思いもしないことが次々と起こっています。それを鎮めるため、力強く大地を踏みしめ、祈りが世界中に届くよう演舞します。

〈 佐渡民謡 ～芸能と文化の島より～ 〉 はもち

新潟県立羽茂高等学校 郷土芸能部

佐渡島の南部にある全校生徒80名程の高校。郷土芸能部は平成18年の発足以来、地域に根ざした活動を行っている。佐渡には、朱鷺の舞う美しい自然と、金山や北前船に代表される歴史があり、その豊かな文化の中で様々な芸能が育まれている。地域の方々の御指導のもと、佐渡の芸能の魅力为全国へ、そして未来へと伝えられるよう、日々練習に励んでいる。お祭りやイベントでの公演は年間20回を超え、平成19年から14年連続で、全国高総文祭に出場。昨年度は第34回国民文化祭にいがた2019、第19回全国障害者芸術・文化祭にいがた大会の閉会式でも民謡を披露。また、クルーズ船で佐渡に来島された海外のお客様を佐渡民謡でお見送りした。



【全国高総文祭での成績(過去3年間)】

郷土芸能部門 出場 (H29、H30)、優良賞(R1)

★「相川音頭(あいかわおんど)」は金山の町、相川に伝わる民謡です。金山奉行の前で礼を失せぬよう笠で顔を隠して踊られた御前踊りを演じます。「七浦甚句(ななうらじんく)」は、美しい海岸と夕日の景勝地である七浦に伝わる民謡です。フィナーレでは「佐渡おけさ(さどおけさ)」を演じます。芸能と文化の島・佐渡の素朴で情緒あふれる民謡をお楽しみください。

〈米ぬ為しーまいぬなしー〉 沖縄県立八重山農林高等学校 郷土芸能部

八重山諸島石垣島にある日本最南端の農業高校。4つの学科の特色を活かしながら地域に根差した農業で6次産業化をめざし生き物と向き合う中で育てることの難しさ、食べられることに感謝の気持ちを感じながら学んでいる。郷土芸能部は豊年祭などの地域行事や老健施設への訪問を行っている。また、地域の方々に御指導を頂きながら、伝統芸能や御嶽、歴史、文化について見聞を広げようと研究もしている。将来、八重山芸能を継承していく人材になるため、助け合いの心ゆいまーるの「結」を合い言葉に毎日練習に励んでいる。JAまつりなどの地域行事に参加したり、敬老会や老健施設への訪問にも力をいれている。



【全国高総文祭での成績(過去3年間)】

郷土芸能部門 出場(H29)、優秀賞・文化庁長官賞 (R1)

★先人たちは、稲作(米)を為し得るために、種子の健全な成長を祈って歌い、労働歌でお互いを励まし合いながら農作業を乗り越えてきました。今年の稔りに感謝を捧げ、来年の豊作を願う思いは今でも島々の祭りや芸能に脈々と受け継がれています。本演目は、八重山の稲作文化になぞられ先人たちの思いを表現し、毎年豊年祭で地域の方々と一緒に神様に奉納舞踊として捧げている演目です。生きるために祈り、生きるために農作業を行う。そして豊作で食物がある喜びを演じます。農業を学ぶ私たちだからこそできる八重山舞踊をお楽しみ下さい。

えてんらく

つるぎ

〈平調 越殿楽〉〈浪速神楽 劔の舞〉 浪速高等学校 雅楽部、神楽部

雅楽部は平成2年に同好会として発足し、高校生4名、中学生3名で活動を行っている。(平成24年第32回大阪府高等学校芸術文化祭日本音楽部門で優秀校に、同年第32回近畿高校総合文化祭(和歌山大会)で奨励賞を受賞。)神楽部は平成24年の創部以来、入学式や卒業式、例祭などの学校行事で舞の奉納をし、高校生8名、中学生4名で活動を行っている。(関西の神社で浪速神楽を披露。その他、他校の文化祭などで本校独自の神楽である尚学の舞を披露。)本校は神社神道の学校であり、両クラブとも学内にある学院神社の例祭で演奏と舞を行い、学外でも雅楽と舞の奉仕を行っている。



【全国高総文祭での成績(過去3年間)】

出場なし

★「平調 越殿楽」(雅楽部):最も有名な雅楽の曲で、結婚式などで演奏されます。今回は、平調という調子のものを演奏します。黒田節の原型と言われており、1000年を超えて伝わっている日本最古の雅楽の音色をお楽しみください。

「浪速神楽 劔の舞」(雅楽部、神楽部):舞人が小太刀を持つこの舞は魔除けの意味があり、関西の神社でよく舞われる神楽です。劔を持つ巫女たちの静から動へと変化する舞の動きに御注目ください。

郷土芸能(和太鼓)

〈 神楽太鼓組曲「祈り」 〉 愛知県立松蔭高等学校 和太鼓部

和太鼓部は愛知県の尾張南部地方に伝わる「神楽太鼓」の同好会として平成元年に発足。左手でバチを回しながら長胴太鼓と締め太鼓を打つ、創作和太鼓にはない打法を特徴とする郷土芸能の太鼓であり、作品中の獅子舞は高校の約50m南にある小さな神社に伝わるもの。我が和太鼓部は、皆様のお蔭を持ちまして、今年創部32年目を迎える。最近は新しいコーチのもと、伝統的な神楽太鼓の曲ばかりではなく、現代曲や津軽三味線などの違う楽器とのコラボにも果敢に挑戦している。名古屋城・徳川園などの名所での演奏ばかりではなく、地域のお祭りや老人ホームの訪問演奏など地元との交流も大切に取り組んでいる。



【全国高総文祭での成績(過去3年間)】

郷土芸能部門 優秀賞・文化庁長官賞 (H29)、出場(H30)、優良賞(R1)

★郷土芸能「神楽太鼓」と、地元烏森町に伝わる「町之切獅子舞」を題材に、ストーリー性、メッセージ性を盛り込んで構成した「舞台作品」です。前半は土地に暮らす人々の幸せを共に祈った「芸能の精神」、後半は屋形太鼓や大桶太鼓が演奏を盛り上げながら新たな時代を生きる私たち高校生の未来への想いを込めて演奏します。飢饉、戦さ、そして疫病・・・抗うことができない力によって命を落とす、「無念の死」がごく身近だった時代、土地に暮らす人々は舞い、唄い、太鼓を打ち鳴らして、一年無事に過ごせたことを感謝し、未来の幸せを共に祈ったのではないのでしょうか。新型コロナウィルスという「抗うことができない力」に直面した今こそ、私たちは「郷土芸能に込められた祈り」を抱きながらこの演奏を日本中、世界中の人たちにお届けしたいと思います。